

研究成果の紹介

集落営農組織の総合力が高まる「経営管理チェックリスト簡易版」の活用方法

本チェックリストは、役員に経営管理実態の自己チェックを通じて、組織運営の気づき(発見)を与える効果がある。活用方法は、集落営農連絡協議会などに加盟する組織が一同に、組織ごとにチェックリストに記入後、その内容の見える化を行う。協議会全体研修会で他の組織との比較診断や支援機関による個別相談によって“強み弱み”を明らかにすることにより、組織自らによる改善のきっかけにつながる。

内容

本チェックリストは、組織を持続させるために必要な33項目を含んでいる。この開発には加古川、姫路、龍野、加西、豊岡の各農業改良普及センター、専門技術員と共同で取り組み、普及指導員の現場活動での実用化を目指している。「A市集落営農連絡協議会(20組織)」における活用方法を紹介する。

まず、回収された33項目のチェック内容は、支援機関が組織の特徴を把握しやすくするために、組織力、経営力、技術力、永続性、社会性の5分野に分けてグラフ作成により見える化を図り、片寄りなく組織運営が取り組めているかを組織ごとに診断する。次に、全組織が集まる研修会を開き、自組織と他組織との比較検討を行って“強み弱み”を明らかにする。これは改善目標を早く設定する機会としても有効である(図1)。

一例としてB営農組合長のチェック結果をみると、集落内外における交流活動や環境保全活動など

の項目を集約した社会性の点数が目標値(50%)を下回り、組合長自身がその項目に対する取り組みが弱いと認識していることが明らかになった(図2)。この結果を受けて支援機関では、社会性を意味する地域貢献活動などの見直しを提案する。

このように、支援機関は全体研修会後組織ごとの33項目のチェック結果を用いて役員と個別相談を行い、具体的な問題発見と解決法について検討する。

本チェックリストは、記入後の「内容の見える化」全体研修会 個別相談の流れにより、組織改善の糸口として活用できる。

今後の方針

本チェックリストの活用事例数を増やし、県下全域における活用方法の具体化を図る。

加藤 雅宣(農産園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2440)

本チェックリストは、当センターウェブサイトに掲載
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>

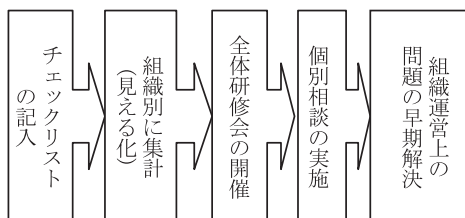


図1 チェックリストの活用手順

図2のチェック結果の見方(本事例の場合)

各分野のパーセントは、組織力20点、経営力33点、技術力9点、永続性24点、社会性14点に配点された点数の割合である。

これまでの試行結果から50%未満の分野がある場合は、その改善が必要となる。

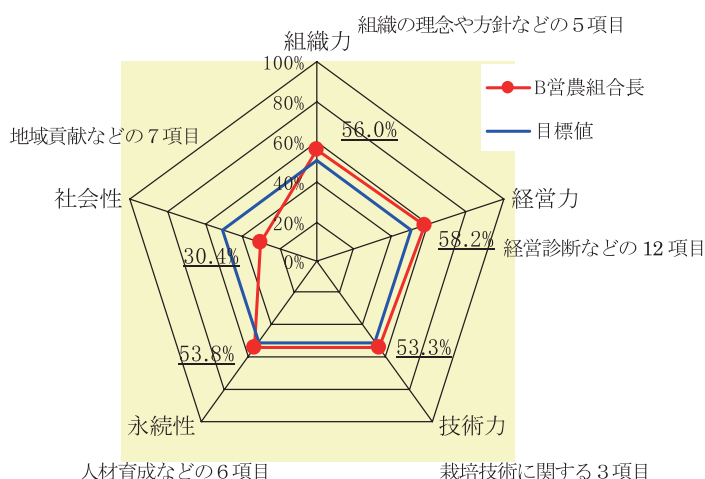


図2 B営農組合長のチェック結果